

概 要 報 告

実施期日	8月1日(木)
部会名	中学校 特別活動部会

神奈川県研究主題

カリキュラム・マネジメントによる学校教育の改善・充実

テーマ

『互いに認め合う、高め合う仲間づくり』

提案概要

本提案は、『互いに認め合う、高め合う仲間づくり』を主題とした学校行事を活かした集団づくりの研究である。学校教育目標「互いの人格を認め合い、共に生きる人になる」をもとに、特別活動の目標の要点をおさえ、「互いに認め合う、高め合う仲間づくり」をテーマとして考え、年間を通して実現するために、学級づくりから、体育祭や合唱コンクールなどの学校行事で仲間づくりとして行った取組を紹介する。さまざまな行事を通して生徒たちは仲間と協力することができるようになった。また、実行委員やパートリーダーなどを経験した生徒はリーダーシップを他の場面でも発揮することができるようになった一方で、一部の生徒に任せて自分から積極的に活動しない生徒や、自分ができる範囲内の取組だけを行う生徒もいた。そこで、1月の八ヶ岳野外体験教室での宿泊行事では、一人ひとりに役割を与えることで、自分の行動に責任をもち、集団生活の在り方をもう一度確認させたいと考えた。また、集団生活で大切なことを考える場にしながら、思い出に残る学校行事にしていきたいと考えた。

①学級における取組（学級目標の設定）

学級目標を決めるにあたり、どんなクラスにしたいか、キーワードを考えさせ、1年間意識づけを行った。自分たちが決めた目標を1年間大切にさせるために、行事や長期休みがあるごとに、教師から問いかけたり、クラスで何かを決める際に、学級目標を常に意識させたりした。

②体育祭における取組

体育祭のねらいは、「集団で協力することの良さを感じる事」、「体育祭を通して、リーダーの育成を図ること」の2つである。これらを達成するために、ダイヤモンド・ランキングを活用し、クラスで大切にすることを3つ決めた。また、縦割り班活動による協働の場をつくり3年生中心に、練習を行い、当日も必ず他学年と一緒に参加する競技を行った。

③合唱コンクールにおける取組

合唱祭のねらいは、「パートごとの練習を行い、小集団でのリーダーの育成を図ること」、「学級で協力しながら練習し、クラスで一つの曲を歌い上げ、一体感や達成感を感じる事」の2つである。これらを達成するために、実行委員中心に練習内容を考え、パートリーダー、指揮者、伴奏者を中心に練習に取り組むようにした。また、他クラスとの歌い合いや学年リハーサルを行った。

④宿泊行事における取組

宿泊行事でのねらいは、「普段とは違う状況の中で、仲間と共に、協力し、より良い学年集団として成長すること」、「集団で必要なルールを作らせ、それを守りながら行事を楽しむこと」の2つである。これを達成するために、2クラス合同での宿泊体験や2クラス合同で班を編成し、体験活動を行った。また、各クラスから実行委員会を発足し、目標やルール決めを行った。ルール決めを行う際は、まず生徒が各クラスで意見を出し、その後実行委員会で検討する。その中で気になるものに関して、再度生徒で話し合いを行い、実行委員会で決定するという流れで行った。

〈手立てを通した生徒の変容〉

①学級における取組（学級目標の設定）

学級目標は「えのき～笑顔・のびのび・協力～」とキーワードの中で共通しているものからあいうえお作文にして、学級に掲示し、学級通信のタイトルにもしたことで、子どもたちにも意識づけをすることができた。

②体育祭における取組

縦割り集団の中で活動することで、他学年の生徒とコミュニケーションを取りながら競技に取り組むことで、集団の一員として協調性を育み、練習や係の仕事で活躍することができた。また、クラスを指揮した実行委員がその後、合唱コンクールの指揮者としてクラスをまとめたり、後期の学級委員として力を発揮したりするなど、他の場面でもリーダーシップを発揮することができるようになった。

③合唱コンクールにおける取組

リーダーになった生徒は、はじめは手一杯な部分もあったが、回数を重ねることで、リーダー同士で意見を交換し合い、リーダーとして自信を持って他の生徒に伝えることができた。また、一つの曲をみんなで作り上げることにみんなで協力し取り組んだことで、クラスに一体感が生まれ、達成感を感じられた生徒が多かった。

④宿泊行事における取組

ルールなどの決め事に十分な時間が取れず教師主導で決めてしまった点もあったが、ルールを守りながら行事を楽しむことができた。また、同じ宿泊場所で過ごしたり、スキー体験を行ったりしたことで、給食の時間や、休み時間では普段話していなかった生徒同士の交流がとて増え、生徒たちの人間関係が深まっている様子が見られた。また、クラス内の関係だけにとどまらず、クラスの枠を越えて話している場面が見られるようになった。

質疑応答

なし

協議の柱及び協議概要

【協議の柱】

「子どもたちに主体的に行事を行わせるためには、どのような工夫があるか」

【協議の内容】

- ・子どもの発達段階に応じて、取り組む内容を変えていく。
⇒小学校低学年は枠を与えるが、中学生になったら枠組みを考えていかせる。
- ・実行委員を活用して、子どもたちが自ら動くようにする。
- ・キャリアパスポートや昨年度の振り返りを活用する。

まとめ概要

学校教育目標「互いの人格を認め合い、共に生きる人になる」を意識し、年間計画を作成した。

4月からクラスづくりや学校行事を行う中で、生徒たちは少しずつ人間関係を形成し、「助け合える」「手を差し伸べられる」生徒が育ってきた。さらに、今まで関わる機会が少なかった生徒との関わりが大きく増え、生徒同士が打ち解け合い、休み時間など談笑する場面が増えた。そういった姿を見ると、生徒たちに「互いを認め合う、高め合う仲間」がつくれていると感じる。一方で、宿泊行事の内容は教員主導で決めることが多くなってしまい、「生徒が主体的に行事を行えたと言えるだろうか」と課題に感じた。

特別活動には、大きな教育的価値や教育的効果があると考え、そのためには教員が中学校生活を見通し、計画を立てなければならない。今年度は、集団で助け合いながら行事に取り組む姿勢が見られたのは大きな成果だった。特別活動の意義をより発揮するためにも、来年度以降も、既存の学校行事や学年行事をただ行うのではなく、今一度精査をして、改めて計画、検討する必要があると考える。